

中間発表会後のKSIは何をすべきか？

みなさん、中間発表会お疲れさまでした（もう1ヶ月も前ですが・・・。今更?）。今回は、この発表会が、単なる「課題研究の途中経過を見せる場」ではないことを理解し、これからどのようにKSIを進めていくかを考えてもらうため、その意義について説明します。

① 自分たちの頭の中の整理と気づき

発表の準備を進めていく過程で、これまで気づけなかった新しい発見や疑問が生まれることがあります。

【研究の見える化】

発表するために、頭の中にある考えや集めたデータを、スライドにしますよね。言葉にしたり、図にまとめたりとアウトプットすることで、もやもやしていたことが、ストーリーになっていきます。「この部分が曖昧だったな」「このデータはもっと詳しく調べる必要があるな」といった気付きにも繋がります。

【新たな視点の獲得】

発表スライドを作成する際、「この実験結果のグラフって、どうしてこうなったんだろう?」「この考察で本当に合ってるのかな?」と深く考えるようになります。この自己問答のプロセスこそが、研究の精度を高めることにつながります。

② 大学の先生からのアドバイス

【専門的な知識の補充】

先生方は、その分野の最前線で研究されているプロフェッショナルです。自分たちでは思いつかなかったような新しい実験手法や、分析方法について助言をもらえることがあります。

【研究の方向性の修正】

先生方の視点から、「その研究は少し方向性がずれているかもしれない」「この点を深掘りしたほうが面白い結果が出るかもしれない」といった、今後の研究の進め方に関するアドバイスをもらえます。これは、限られた時間の中で効率的に研究を進めるために不可欠です。

③ 他の生徒からのアドバイス

【素朴な疑問やユニークな視点】

自分たちの研究に没頭していると、どうしても視点が偏りがちです。しかし、素人（他の生徒）の素朴な疑問や「なぜ?」という問いかけは、意外と本質的で自分たちでは気づけなかった盲点を教えてくれます。また、全く新しい角度からのアイデアやヒントをもらえることもあります。

⑤ 発表スキルの向上

【伝える力の養成】

どれだけ素晴らしい研究をしても、それが聞き手に伝わらなければ意味がありません。発表の仕方、スライドの作り方、話すスピード、声の大きさなど、様々な要素が「伝える力」に影響します。先生方や他の生徒からのフィードバックをもとに、これらのスキルを向上させることができます。

【質疑応答の練習】

発表後の質疑応答は、その場で瞬時に考え、自分の言葉で答える力が試されます。この経験を重ねることで、論理的に思考し、的確に表現する力が身につきます。

⑥ 後輩への研究スキルの継承

中間発表会は、先輩から後輩へと研究の進め方や発表スキルが引き継がれる場でもあります。

【君たちがお手本!】

2年生の発表は、1年生にとって「課題研究とはどういうものか」「どうやって進めていけばいいのか」を学ぶための貴重な教科書です。皆さんがこれまでの苦労や工夫を話すことで、後輩たちは研究へのモチベーションを高め、具体的なスキルを学ぶことができます。

【そして伝統へ!】

先輩から後輩へ、そしてそのまた後輩へと、研究の進め方や発表のノウハウが受け継がれていくことで、理数科全体の課題研究のレベルが向上し、より良い研究文化が築かれていきます。

※今後の日程

9月→期末考査 10月→見学旅行・四分の三発表会（10月31日(金)） 11月→中間考査

12月→課題研究発表会（12月19日(金)）

意外と時間は無いよ！考査後にどんな実験をするか、今日のKSI-IIでしっかり考えよう！